

新世  
意書何

特44

789

東 京 圖 書 館				
和書門	音聲類	函	二六架	三號
六三冊				



遠心皇荷



院小紅なる信下たり。然  
則君翁以沙籠毫有之。毎のあは  
たのさへと植をさへさへ又家り

山神の社司とて 舞の者の儀ら

と菊の下茶袋からせんまふ家



付りやと存ふ又承く候彼老らぬ  
折ふ。志の事計の江海城あり  
忽ちちくも憲と成る由承る  
彼老と石出書りやと存らる  
沼有田前ひく山科の世目よし  
方(事)れとや久畏てさるる料

の世目の流分治ぶて流りゆそ

意は事あり候し候しあり畏て

るる世目候し候しあり

借女ぬそとて進程は方は

扱ふりてとて扱中と

まゝとくしり候り左候の

MS.A.11.10

二



今更に此の事一々尋ねて

早急な事にして早急に

此の事をして早急に

意を盡して早く

早く此の事をして

早く此の事をして

早く此の事をして

早く此の事をして

早く此の事をして

早く此の事をして

早く此の事をして

早く此の事をして



しやうやうあつちやう有難うたつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

甲

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう

あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう  
あつちやうあつちやうあつちやうあつちやう











付と社司の御一々其の御一々  
言活者御の御に不便感の御に  
そが御一々其の御に御に御に  
其の御に御に御に御に御に御に  
の者の御の御に御に御に御に  
小て御に御に御に御に御に御に

繡を御に御に御に御に御に御に  
御に御に御に御に御に御に御に  
小の御に御に御に御に御に御に  
叶の御に御に御に御に御に御に  
の御に御に御に御に御に御に御に  
御に御に御に御に御に御に御に  
御に御に御に御に御に御に御に



持はしむるが如くして汗を流し  
らせ給ひけるが如く自力を以て  
しむるが如くより意行なれは持  
たぬが如く致恨致てかたが身を  
ひたすが如くは便に社を以て由  
りしむるが如くは便に社を以て由

科の在りし頃よりあるが如くは  
るべきが如くは致の物なりの一  
あるが如くは若くはしむるが如  
て致者の如くは一目に致るが  
あるが如くは致るが如くはしむ  
るが如くは致るが如くはしむる  
るが如くは致るが如くはしむる



三十一 早稲

下中の果人多くは花は咲いて

早稲

早稲も多くとはなりし早稲

たんとすれは磐石もあはれく

東家たのしみは様のみ

報の事

の世はさきひ

昔はさきひ

編みはつたの昔はさきひ

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る

念無量の鬼は成る



物が何れ恨もなぞ思ひ茶のま  
すんみれこの世の世とせ  
て思ひはるまにうら  
も思ひあり清田のま  
これ多や完全地獄のま  
ねり思ひはるまに  
ねり思ひはるまに

立もろくも<sup>テ</sup>福茶<sup>マ</sup>の  
乱れ思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに  
いも思ひはるまに

志

十巻



守之

右之本者觀世太夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來在昔數十年、星霜ヲ経ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ  
ニ印刷ニ附セザレバ之ヲ世ニ公ニスル能ハシク悲シ今版  
宮内省 御用達觀世清考、校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明和十五年九月二十日出版御用  
明和十五年九月 別成院

京都府平民

出版人

繪

常



定價 壹錢

東京三手細三茶屋町町屋  
子屋町三十五番地



